

奉_レ贈_二韋左丞丈_一二十二韻（韋左丞丈に贈り奉る二十二韻）

作・杜甫

【原文】

紈袴不_二餓死_一 儒冠多誤_レ身

丈人試靜聽 賤子請具陳

【訓み下し文】

紈袴 餓死せず 儒冠 多く身を誤る

丈人 試みに靜かに聽け 賤子 請ふ 具さに陳べん

【現代語訳】

韋左丞殿に贈り奉る

絹の下穿きの貴公子が餓死することはないのに、学者は人生を踏み外すことが多い。

伯父上殿、しばしお耳を拝借します。不肖（わたくし杜甫は）、事細かに述べさせて頂きます。

【語註】

○韋左丞丈・・・韋濟。「左丞」は官名。尚書左丞。「丈」は年長・目上の人に対する尊称。韋濟は祖父・伯父・父いづれも宰相の地位に昇った名門。

韋濟自身も天寶七載に阿南尹になり、その後で尚書省の左丞（次官）という要職に移った。

○紈袴・・・貴族の子弟の履くズボン或いは下着。「紈」は白い上質の絹。「袴」は「褲」と同じ。

『漢書』叙伝上に班固自身の出自のよさを言って、「綺襦（上半身に着る絹の下着）紈袴の間に在り」。

○餓死・・・『史記』伯夷列伝に「遂に首陽山に餓死す」。

○儒冠・・・儒者のかぶる冠。『史記』酈生・陸賈列伝に、劉邦は儒者を嫌い、「諸客の儒冠を冠して来る者あらば、沛公（漢の高祖・劉邦）輒ち其の冠を解きて、其の中に洩溺（ゆばり）す（小

便する。」

「儒冠」によって儒者、文筆を事とする者を表す。二句は良家の子弟が困窮することはありえないのに対して、学問・文学に携わると落伍者になることをいう。

身分の高い者は「綺襦」で指す（表す）こともできるのに、あえて下半身に着ける「紈袴」表し、低い者は逆に頭に着けるもので指す。上下の転倒に皮肉か籠められる。「袴」を下着に限定すれば、皮肉は更に増す。

○丈人・・・年長の人に対する尊称、しばしば親族の年長者に対していうことから、個人的な親しさ、近さも伴う。

○試静聴・・・人々に静肅を求めて歌い始めるのは歌謡に時々見える。たとえば南朝宋・鮑照の「東武吟」（『文選』卷二八）に「主人 且しばらく誼かまびす しくする勿なかれ、賤子 一言を歌はん」
○賤子・・・自分を指す。ただし単なる謙称とは異なり、「試静聴」の注に引く例のように、主人に対する歌い手など、身分差を顕著に示す。

【参照】『新釈漢文大系 詩人篇6 杜甫』 明治書院 p.48